

# 甘え捨て そっと見守る

2カ月に一度、その「とき」は訪れる。楽しみにしているはずなのに、いざ大相撲の本場所が始まると、沢田智恵美さんほどの気持ちは重くなり、テレビの前に足が向かなくなる。流れる映像も「消してほしい」とにかく見たくなくなるんです。結果だけ教えてくれればいいんです。

## 大相撲 千代の国

### 母の ままなごとし

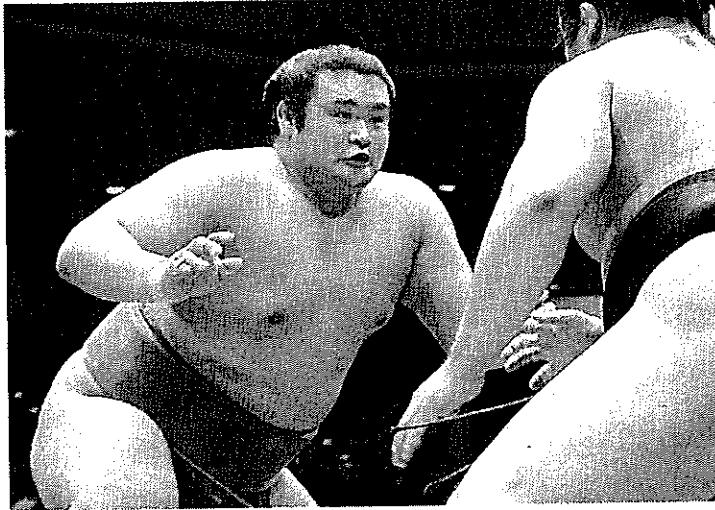
千代の国憲輝（ちよのくに・としき）本名・沢田憲輝。1990年7月10日生まれ、三重県伊賀市出身。同市花ノ木小時代は空手をやり、同県名張市の名張北中では柔道で全国中学選手権に出場。2006年5月の夏場所で初土俵を踏み、11年名古屋場所で新十両、12年初場所で新入幕を果たした。最高位は同年春場所の東前頭8枚目。通算成績は186勝121敗46休。得意は突き、押し。今年1月の初場所は東十両2枚目で9勝を挙げ、3月の春場所で幕内復帰が確実。師匠・九重親方似のルックスで、人気上昇中。



①「ただ見守るだけ」と語る沢田智恵美さん ②春場所で幕内復帰は確実とみられる千代の国憲=1月21日、東京・両国国技館で

らに落ち着きを知り、「勝ってほしい」と思うので、うしろまっ、投げ出されたり大

大丈夫だろうかと思えるのも、もともと本場に疲れるんです。幕下までは7番しかとらなかつたけれど、いまは毎日です。2週間は本場に長いんで



次男の千代の国が入門して7年。昨年1月の初場所で新入幕を果たしたが、ケガが続き、十両と行ったり来たり。同年名古屋場所で十両優勝し、幕内定着の力は着実に備わってきたが、肩の脱ぎゅうや腰痛など故障の心配事が、母親の頭から抜けきらない。僧侶の父親・覚法（かくほろ）さん（母）の教育方針は

「人間はすべての人に支えられていて。そのことに感謝し、責任のある行動をとるために、精神を強く鍛えなければならぬ」。

三重県伊賀市の橋本寺。父が住職を務める山あいの寺で兄と姉、弟の4人きょうだい。幼いころから礼儀作法や食事のしかたなどを厳しくしつけられた。智恵美さんは「主人の考えは間違いないと私もついていきました。母親はどついても甘くなる。主人は甘やかしたら人間はだめになると考えていましたから、私はただ見守るだけでした。4人が弱音をはいたり、甘えたりした姿を、いまだに一度も見ていないという。覚法さんは九重親方(元横綱・千代の富士)に自ら会いに行き、「親方に預ければ人間としての信念を育ててもらえる」と信じ、4歳上の兄・賢澄(けんしょう)さんと千代の国をそれぞれ相撲界へ送り出した。千代の国が関取になり、釋内昇進を果たしても両親が手放して喜んだりすることはない。

「この地位が上がったからうれいとか、ここにいないから安心とかいう感情はないん

ですよ。いまの立場にいることに感謝し、いま何をせんならんかという目標を持ち、いまある力を責任持って全力で尽くしていれば、私は満足なんです」と智恵美さん。

入門後、毎日の様子を伝える電話がかかってきたりメールが送られたりしてきたことは一度もない。そのことに智恵美さんもまったく不満はない。ただ、母の日と誕生日に、「ありがたう」「おめでとう」とひと言の電話がかかってくるのが、何よりの喜びとなっている。

人目のある場で千代の国のそばに姿を見せるのは、1年に一度の名古屋場所とその千秋楽に行われる九重部屋の打ち上げパーティーだけ。それも片隅でそっと息子の姿を見守っている。

「この子はここで終わりじゃない。また相撲界に入った責任は続いています。それに頑張っている人に、『頑張れ』というのは子どもであっても失礼です。いまでも見守るだけなんです」

陰から一挙手一投足を静かに見つめるまなざしが、22歳の千代の国のこれからはしっかりと支える。(安田栄治)